

成果情報

- 浮き楽栽培法
- 水耕ネギ根腐病対策
- 小麦一発施肥法
- モモのジョイント仕立てマニュアル

品種紹介

No. 48 「多陵オクラ」

現場の声を研究開発と技術支援に活かします！

昨年6～9月に、広島県内の個別農家、農業法人、農業参入企業、農業団体、農外企業等、計62経営体を訪ね、農業技術センターに対する御意見や農業（経営）の現状をお聞きする機会を持つことができました。

この訪問は、農業技術センターの業務に関わりのある皆様の声をお聞きし、当センターが今後対応すべき課題を抽出するとともに、これらの声を今後の研究開発や技術支援のあり方に反映させるために実施したものです。

ご対応いただいた皆様には、農業技術センターに対して、生産現場での技術課題解決の拠り所としての期待感、そのための人材育成の必要性や、開発した技術・品種の早期の移転に向けた御要望や多様な農業生

産現場における夏季の暑熱対策への御要望等、大変貴重な後意見を多数いただき、ありがとうございました。

折しも、TPP交渉後に想定される、新しい時代の幕開けを間近に控え、国を挙げて「攻めの農業の実現」に向けて取り組んでいる最中であり、当センターにおいても、皆様の声を活かしつつ、高品質で競争力のある農産物を低コストで生産するための、新たな技術体系の確立に取り組んでいるところです。

こうした取り組みを重ねていくことによって、より高い貢献と存在感のある農業研究機関を目指します。

今後とも、幅広く現場の声をお聞きし、研究課題の立案や推進、技術支援の取り組みに生かしていく所存ですので、御理解と御協力を宜しく願います。

（センター長 新田 浩通）

成果情報 浮き楽栽培法による葉菜類栽培

水稲育苗技術の省力化と、育苗ハウス遊休期間を利用した葉菜類栽培の両方を実現する「浮き楽栽培法」を開発しました。これは、発泡スチロール板に培地を充填した水稲育苗箱3箱を搭載し、それらの自重により底面が5mm浸水した状態でプールに浮かべて管理する方法です。

葉菜類栽培では、配合培地を育苗箱に詰め、予め育苗したセル苗を定植しプールに浮かべます。また、水中ポンプでプール水を循環させることでエアレーションし、酸素を供給します。育苗箱底面が常時浸水した状態なので、かん水作業は不要です。春秋季は土耕栽培と同等以上の品質が得られ、夏季はプール水をこまめに入替えることで、暑さによる抽苔を軽減します。

この栽培法の詳細については、マニュアル「水稲育苗編」に続き「葉菜類栽培編」として農業技術センターホームページに掲載しています（検索キーワード；マニュアル一覧 浮き楽栽培）。

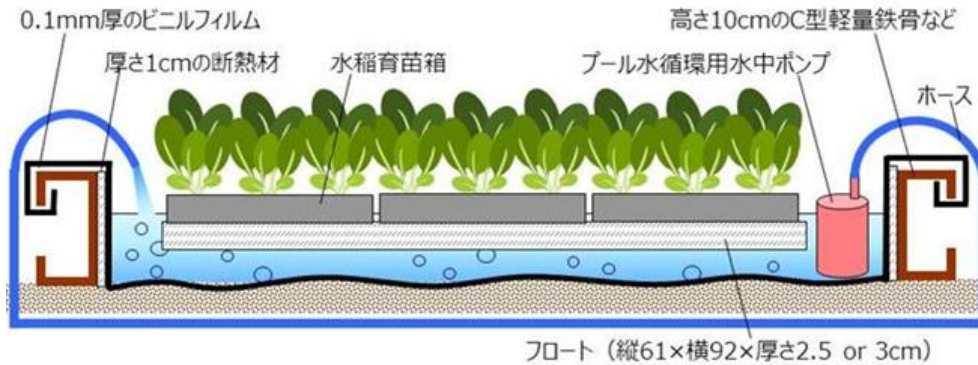


図 浮き楽栽培による葉菜類栽培の模式図（断面）

（栽培技術研究部）

成果情報 水耕ネギ根腐病対策のための定植パネルの太陽熱消毒

水耕ネギの根腐病は、繰返し使用される定植パネルにピシウム菌が残存し、次作の伝染源となっています。55℃10分の温湯浸漬では完全に殺菌できますが、コストや労力が掛かります。そこで、より簡易にできる殺菌方法として、夏季の太陽熱利用による方法を考案しました。

8月の晴天日にビニルで密封したパネルをハウス内で1日以上放置すると、ビニル内の最高気温は55℃になりました（図1、表1）。処理後のパネルにネギを植えたところ、無処理と水洗のみの感染株率が95%以上であったのに対し、太陽熱消毒は8%と防除効果が認められました（表1）。

太陽熱消毒は、感染株率をゼロにすることはできませんが、発病盛期である夏季の簡易な殺菌方法として有効です。また、最高気温が55℃に達することが殺菌の目安と考えられるので、ビニル内に最高最低温度計を設置して確認します。



晴天日（8月7日
12:00～8日15:00）
のハウス内にカート
に立てたパネルを
農業用ビニルで
密封しました。

図1 定植パネルの太陽熱消毒

表1 定植パネルの殺菌効果と最高気温

処理方法	ネギのピシウム 感染株率 (%)	最高気温 (°C)
太陽熱消毒	8	55(ビニル内)
風乾	48	44(ハウス内)
水洗のみ	97	—
無処理	96	—

風乾はハウス内にパネルを太陽熱消毒と同時間放置しました。

（生産環境研究部）

ジーンバンクで保存している特徴のある品種 (48)

多陵オクラ

多収で外観良く食味も優れた品種

この品種は広島市の農家から譲り受けて農業ジーンバンクで増殖し、保存しているものです。初期生育はやや穏やかですが、温度が上昇するにつれて旺盛になり、収量も上がってきます。



総収量は17供試品種の中では多いほうでした。収穫果実の平均値は長さ14.9cm、直径23.6mmとかなり大型ですが、果肉は柔らかく食味は良好でした。

広島県中部地帯での定植期は5月中旬以降が適当で、あまり早いと初期生育が緩慢となり、障害の発生が懸念されます。直根性のオクラは育苗期間が長いと鉢から根が出てしまうおそれがありますので、直播するか、鉢に播いて出芽後早期に定植するのが良いでしょう。畦幅80cm、株間30cmを標準とします。

一般財団法人 森林整備・農業振興財団 農業ジーンバンク技術嘱託員 船越建明

農業技術センター
ホームページをご覧ください。

農業技術センターホームページでは、センターニュースをはじめ、研究成果情報など最新の情報を提供しています。また、お問い合わせの多い各種案内、研究紹介など、お役にたつホームページとしています。インターネットの接続環境があれば、いつでもパソコンでご覧いただけます。ご活用ください。

広島県 農業技術センター

検索

<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/30/>



(問い合わせ先)

〒739-0151 東広島市八本松町原 6869
総務部 ☎082-429-0521
技術支援部 ☎082-429-0522
栽培技術研究部 ☎082-429-3066
生産環境研究部 ☎082-429-2590

〒739-2402 東広島市安芸津町三津 2835
果樹研究部 ☎0846-45-5471

農業技術センターNews No. 114
編集発行

広島県立総合技術研究所
Hiroshima Prefectural Technology Research Institute

農業技術センター
平成26年5月1日

お問合せ・ご意見は、技術支援部までお寄せください。
メールでもお待ちしております。

E-mail ngcgijutsu@pref.hiroshima.lg.jp